

共に北海道の未来を創る
第9期北海道総合開発計画



北海道開発局札幌開発建設部

令和6年7月29日

第9期北海道総合開発計画 構成

前文 第9期北海道総合開発計画の策定に当たって

第1章 計画策定の意義

第1節 北海道開発の経緯

1. 北海道開発の歴史
2. 第8期北海道総合開発計画の経緯

第2節 第9期北海道総合開発計画の意義

第2章 計画の目標

第1節 我が国を取り巻く状況

1. 人口減少・少子高齢化と人口動態の変化
2. 気候変動と自然災害の激甚化・頻発化
3. 社会を変えるデジタル技術
4. 国際情勢の変化

第2節 北海道の資源・特性

1. 広大な大地
2. 食料供給力
3. エネルギー・資源
4. 自然環境・文化
5. 地理的特性・寒冷地技術

第3節 2050年の北海道の将来像

1. 国の課題解決のために果たすべき役割
2. 将来像
3. 将来像を支える社会基盤
4. 将来像を実現するために進むべき方向性

第4節 第9期北海道総合開発計画の目標

- 目標1 「我が国の豊かな暮らしを支える北海道
～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道」
- 目標2 「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造
～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり」

第3章 計画推進の基本方針

第1節 計画の期間

この計画の期間は、2024年度からおおむね10年間とする

第2節 計画の主要施策

第3節 計画の進め方

1. リアルとデジタルのハイブリッドによる北海道型地域構造の保持・形成
2. 計画の実効性を高めるための方策
 - (1) 官民の垣根を越えた「共創」
 - (2) 社会変革の鍵となるDX・GXの推進
 - (3) フロンティア精神の再発揮
 - (4) 戦略的・計画的な社会資本整備
3. 計画のマネジメント

第4章 計画の主要施策

第1節 「我が国の豊かな暮らしを支える北海道～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道」に係る主要施策

1. 食料安全保障を支える農林水産業・食関連産業の持続的な発展
2. 観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり
3. 地球温暖化対策を先導するゼロカーボン北海道の実現
4. 地域の強みを活かした成長産業の形成
5. 自然共生社会・循環型社会の形成
6. 北方領土隣接地域及び国境周辺地域の振興
7. アイヌ文化の振興等

第2節 「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり」に係る主要施策

1. デジタルの活用による生産空間の維持・発展
2. 多様で豊かな地域社会の形成
3. 北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成
4. 生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり

近年の社会環境の変化

人口減少・少子高齢化、気候変動と自然災害の激甚化・頻発化、社会を変えるデジタル技術の進化、ウクライナ情勢や円安等を背景としたエネルギー・食料品の価格高騰、国際的な供給不安の発生、新型コロナウイルス感染症拡大の影響や、2050年カーボンニュートラル実現に向けた動きなど、我が国を取り巻く状況は急速かつ大きく変化しています。

北海道のポテンシャル

豊かな資源に恵まれた北海道には、これらの変化に立ち向かい、課題を解決するポテンシャルがあります。



高い 食料供給力

- 全国約24%の食料生産(カロリーベース)
- 生産量全国一の農畜産物・水産物
小麦、ばれいしょ、たまねぎ、生乳等
ホタテ、タラ、サケ・マス、ホッケ等



魅力的な 観光資源

- 来道外国人旅行者数164万人増
(感染症拡大前の直近5年間で
137万人から301万人に)
- 都道府県魅力度 15年連続全国一



豊富な エネルギー・資源

- 全国一の再生可能エネルギー賦損量
洋上風力、陸上風力、太陽光、
バイオマス、中小水力
- 高いCO₂吸収力
全国の森林面積の約22%

食料安全保障、観光立国の再興、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて
「他で代替できない北海道の価値」を最大化し、現下の国の課題解決を先導します。

北海道の地域構造

高い食料供給力、魅力的な観光資源、豊富な再生可能エネルギーなどの、北海道の価値を生み出す地域「生産空間」は主に地方部に存在しています。

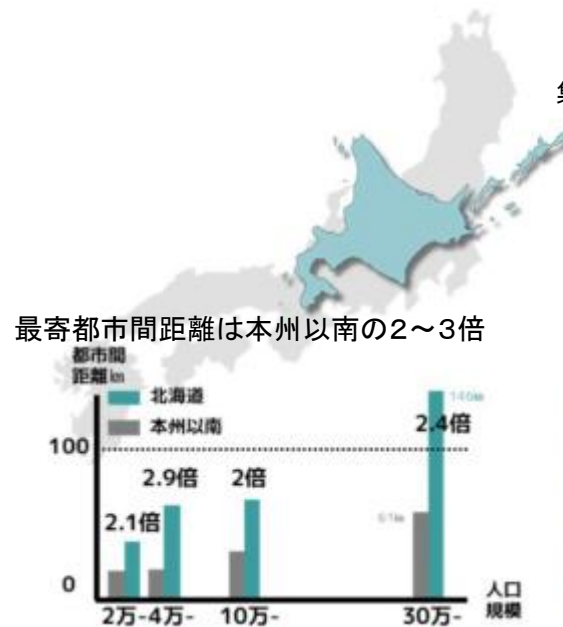
●北海道の価値を生む「生産空間」の分布



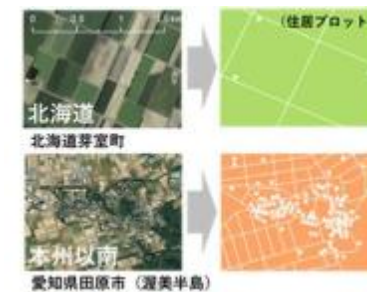
●北海道の生産空間の構造的課題～定住環境の厳しさ～

【マクロ(都市間)の視点】

【ミクロ(集落内)の視点】



集落内居住は散在・散居形態が9割



人口減少が進む中で定住環境を維持するには、時間・距離を縮めるネットワークの強化とデジタル技術の活用が必要です。さらに、積雪寒冷の厳しい気候、激甚化・頻発化する自然災害、海溝型地震への対応として国土強靱化を急ぐ必要があります。

生産空間とは

北海道の特筆した価値を生む地域を、計画ではその「生み出す力」に着目して「生産空間」と呼んでいます。

主として農業・漁業に係る生産の場(特に市街地ではない領域)を指します。生産空間は、生産のみならず、観光、脱炭素化に資する森林資源、豊富な再生可能エネルギー導入ポテンシャル、その他多面的・公益的機能を提供し、北海道の価値を生み出しています。

計画の目標

計画期間：2024年度からおおむね10年間

近年の社会環境の変化、北海道のポテンシャル等を踏まえ2050年の長期を見据えて、北海道開発を効果的に進めていきます。

北海道が我が国に貢献するための土台を固め、北海道の価値を更に高めるため、以下の2つの目標を設定します。

2050年の北海道の将来像

- 食、観光、脱炭素化等の北海道の強みを活かした産業が国内外に展開し、豊かな北海道が実現することで、我が国の経済安全保障に貢献している。
- デジタルの実装により、北海道内の地方部における定住・交流環境が維持されるとともに、国内外から人を魅きつける多様な暮らし方が実現している。

目標1

「我が国の豊かな暮らしを支える北海道
～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道」

目標2

「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造
～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり」

計画の進め方

○ リアルとデジタルのハイブリッドによる北海道型地域構造の保持・形成

生産空間は、人々が分散して生活する地域構造となっていますが、食料生産は実際にその場に住み続ける、観光は実際にその場に行くというリアルを前提に成立しており、リアルを支えるインフラが不可欠です。

また、生活環境を維持するためには、時間と空間の制約を克服できるデジタル技術の活用が有効です。

○ 計画の実効性を高めるための方策

官民の垣根を越えた「共創」

フロンティア精神の再発揮

社会変革の鍵となるDX・GXの推進

戦略的・計画的な社会資本整備

